



# なぜ学校に行かなければならないの？

～夏休みが終わりそうな今だから～



夏休みも半分を過ぎ、2学期まであと12日となりました。「もっと休んでいたい」、「そもそも何で学校行かなきゃならないの？」というようなお子さんの声を聞くこともあるのではないのでしょうか。

学校へ行くことの意義について、以下のようなことがあると考えます。

### ① 社会に出る上で必要な知識や考え方を学ぶ

学校に行けばすべてOK、というわけではありませんが、社会に出て生活をする上で、また仕事をする上で必要な知識や考え方を学びます。

### ② 社会性が身につく

クラスメイトや教職員と日々を過ごしていく中で、人とのコミュニケーションのとり方や社会生活を送る上でのさまざまな常識、社会性、協調性を身に着けることができます。

### ③ 異なる視点から考える力がつく

多様なものの見方を学べることにもつながりますが、学校で自分とは異なる環境で育った、異なる価値観を持つクラスメイトと交流することで、異なる視点から考える力が身に付きます。

### ④ 忍耐力など「非認知能力」が鍛えられる

「非認知能力」とは、テスト結果などの数字で表せない、自制心や忍耐力、コミュニケーション力などの能力のことで、社会に出た後、学力だけでは対応できない問題に直面したときに必要になる力と言われています。

純粋にお子さんから「学校に行く意義」を問われたような場合には、上記のようなことを参考にお話し頂ければ良いと思います。

しかし今ぐらいの時期に「学校に行く意義」を問われた場合、その背景にお子さんの何らかの悩み（学習に関すること・人間関係に関すること・健康に関すること 等）を抱えていることが多くあります。

例えば、お子さんが学習について苦しさを感じているとしたら、その苦しさから逃れるために勉強しない、学校に行かない、などの行動をとろうとします。しかし本心では「勉強すること、学校に行くことの大切さを知っている」、「勉強すること、学校に行くことをしっかりやっていきたいと思っている」ので、その罪悪感からくるストレスから逃れるために「学校に行く意味がない」というとらえ方をし、自分を正当化しようとするのです。

このような場合には、上記の「学校に行く意義」を語ってもあまり効果はありません。かといって、学校に行かないことを認めてしまえば、本当は学校に行かなければならないことがわかっているだけに罪悪感というストレスがどんどんたまっていってしまいます。

そこで大切なことは、本人を苦しめる具体的な要因に対して支援をすることです。またその要因は本人も言葉として自覚できていない場合もあるので、まずはじっくり時間をかけて話を聞いてあげてください。ご家庭のみで解決が難しい場合には学校にもお知らせください。一緒に考えていきましょう。



# 学校評価アンケートの結果

## ご協力ありがとうございました



7月17～22日、1学期の学校運営について振り返り、今後の教育活動に活かしていくため、生徒及び保護者の皆様を対象に学校評価アンケートを実施いたしました。つきましては以下の通り結果の概要（まなびフェストに関連したもの）をお知らせします。

	質問項目	生徒の肯定的回答 (%)	保護者の肯定的回答 (%)
定着 確かな学力の	授業の理解について	87.4 (各教科の平均)	74.7
	家庭学習習慣について (1・2年生90分、3年生120分以上)	<b>31.1</b>	<b>49.2</b>
	学校の宿題だけでなく自主学習に取り組む	62.2	
心身の育成 健やかな	体力向上への取り組み	80.0	74.6
	受診勧告に応じた受診		97.0
	家庭でのインターネット利用時間	1時間未満 17.0 1～2時間未満 44.5 2～4時間未満 29.6 4時間以上 8.9	
育成 豊かな人間性の	場に応じたあいさつ	91.1	83.6
	4月から読んだ本の冊数 10冊以上 (まなびフェストでは年間に10冊以上が目標)	30.4	
	読書の習慣について		41.8
	ボランティア活動・清掃活動等への取り組み	77.0	<b>34.3</b>
れた学校 地域に関か	学校の情報発信		83.6
	地域活動への参加	<b>55.6</b>	88.0

※ 肯定的回答…「あてはまる」、「だいたいあてはまる」

特に問題があると思われるところを太い枠線で囲ってみました。

家庭学習の習慣については、生徒自身、保護者いずれもから見てもいまだ習慣づいてはいないと考えられています。一方で「学校の宿題だけでなく自主学習に取り組む」ことはまなびフェストの目標値60%（県の目標値は58%）を上回っているため、学習の内容自体は概ね評価できる状況であると考えます。

そこで問題となるのは学習時間を確保するための生活習慣の見直しです。家庭でのインターネット利用について、一般に中学生の限度と言われている2時間以上利用している生徒の割合が4割近く、さらに4時間以上の生徒が約9%という驚くべき結果が出ました。これを改善することが家庭学習習慣の定着、ひいては学力の向上にもつながっていくと考えます。ぜひ、ご家庭でのご協力をお願いします。

ボランティア活動・地域活動への参加について、数値目標はないのですが、低調な結果が出ました。これについては地域の各団体などと連携し、生徒たちに情報を提供、参加を促すとともに、その意義についても指導していきたいと思っております。

その他、自由記述では下校時の歩行、運動着の半袖シャツの色、生徒指導に係るご意見などに加え、職員への励ましも頂戴いたしました。これらの結果を職員で共有し、今後の教育活動に活かして参りたいと思っております。